

# 東日本大震災を踏まえた津波防災対策の基本的な考え方

- 被災地は、近い将来に襲来するかもしれない津波や高潮・高波に対して極めて脆弱な状況となっており、被災した海岸堤防の復旧等を速やかに行うことが必要。
- 三陸沿岸においては、明治三陸津波(1896年)や昭和三陸津波(1933年)、チリ地震津波(1960年)など、30年から40年に一度程度の間隔で津波が発生。
- 海岸堤防については、東日本大震災のような最大クラスの津波(L2津波)ではなく、このような比較的発生頻度の高い津波(L1津波)を対象として設計。

## 2011年 東北地方太平洋沖地震の津波高さ

### <最大クラスの津波(L2)>

・住民避難を柱とした総合的防災対策を構築する上で設定する津波

### <比較的頻度の高い津波(L1)>

・海岸堤防の建設を行う上で想定する津波(数十年～百数十年の頻度で発生している津波)

